

政策評価調書(26年度実績)

政策名	知恵を出し汗をかいてもうかる農林水産業の振興	政策コード	Ⅱ-1	関係部局名	農林水産部、商工労働部
-----	------------------------	-------	-----	-------	-------------

【Ⅰ. 政策の概要】

農林水産業における生産の低コスト化・効率化や付加価値を高めるブランド化の推進、中核となる担い手の確保・育成、地域資源を活用した6次産業化の促進など、総合的に構造改革を進める。

【Ⅲ. 政策を構成する施策の評価結果】

	施策名	指標評価	総合評価
1	農林水産業の構造改革	概ね達成	B
2	「The・おおいた」ブランド確立に向けた商品づくり	達成	A
3	次代を担う力強い経営体づくり	達成	A
4	効率的で持続性のある生産基盤・環境づくり	概ね達成	B
5	地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出	達成	A

【Ⅴ. 政策を取り巻く社会経済情勢・今後の動向】

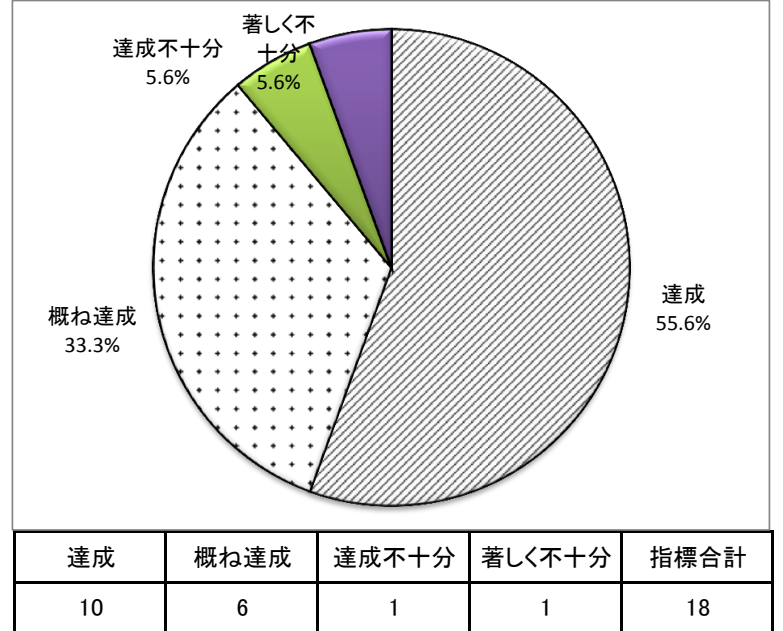
多国間の経済連携協定など経済のグローバル化の進行、人口減少の本格化による担い手の減少や、米の生産調整の見直しをはじめとする国の政策転換など、農林水産業を取り巻く情勢は大きく変化しようとしていることから、農林水産物の生産拡大に加え、農商工連携による付加価値の向上などによる農林水産業の成長産業化に取り組む必要がある。

ロットの拡大や流通の多チャンネル化など、マーケットに対応できる流通・販売体制を構築するとともに、産地間競争を勝ち抜いていくため、効率的で持続的に生産する体制づくりが急務である。

農林水産業を将来にわたり発展させていくためには、経営感覚を持つ、地域・産地のリーダーを確保・育成していくことが必要である。また、農業就業人口の約半数が女性であることから、農林水産業や農山漁村を活性化していくためには、女性の活躍が今後ますます重要となる。

高齢化や過疎化により集落機能が低下しているため、生産・生活基盤の整備とともに、住民の共同活動により農山漁村を活性化する必要がある。また、鳥獣被害は減少傾向にあるものの、依然として生産活動の支障となっていることから、予防や捕獲などの対策を強化する必要がある。

【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



【Ⅳ. 評価が著しく不十分となった指標】

指標名	達成率
鳥獣による被害額	75.5%
<著しく不十分となった理由> 実績は目標値に至らなかったが、被害金額は減少傾向にあり、対策の効果は現れてきている。引き続き、集落環境・予防・捕獲・獣肉利活用の4つの対策を効果的に実施していく。	